

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の人権を尊重し、利用者が必要とする適切なサービスの提供をする。家庭的な環境で、安心と尊厳のある生活支援をする。一人ひとりの能力に応じた介護プランを作成し、自立した生活支援をする。主治医・協力病院・関連施設と連携をとり、健康支援をする。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々、職員は理念を共有し、同じ目標に向かって話し合い、行動するよう努力している。運営理念を職員室に掲示し、実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念を見やすい場所に掲示し、ご家族・民生委員・ボランティアの方の来訪時、分かりやすく、また、理念を理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近くの市場へ買い物、病院へのリハビリ通院、隣近所の散歩、美容師による訪問カット等、日常的なつきあいができるよう努めている。</p>	<p>○ グループホーム集会所を地域の方に解放し、気軽に立ち寄ってもらえるよう取り組んでいる。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所は地域の一員として、地域活動としての国分寺祭りに参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域のボランティア訪問(白鳥太鼓・踊り・大正琴等)、保育園児の訪問、地域の民生委員のボランティア訪問と交流を深めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の自治会等の施設見学の場合、ホームの機能を入居者の支援の基盤として、十分に理解していただき、見学者の方の気軽な質問や悩みなど、役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、評価結果については内容を理解し、評価を活かして、具体的な改善につながるようミーティングを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進委員会を行い、市職員・包括支援センター職員・地域の方・入居者のご家族等の参加をいただき、報告・疑問・意見等を話し合い、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を重視している。また、いろいろな情報をいただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後、市町に行き来する機会を作り、サービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業・成年後見制度について、管理者・職員は資料を提供し、必要な人に活用できるよう支援をしている。	○	運営推進委員会時、市町の方に情報をいただき、詳しく説明等をお願いしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を結成している。定期的集まり、委員会活動を通じて虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族に見学していただき、入居対象者であるか検討すると共に、本人、家族の納得できる説明を行い、理解していただいた上で、契約書にサインをいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「校会」全体で第三者委員会を設置して明確にし、ホームの見やすい所に明示して、入居者に説明をしている。また、苦情受付箱を窓口に用意し、意見・不満・苦情などを運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の日常の様子や健康状態、金銭管理等について、個々に家族報告書を作成し、家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で家族の要望・意見・苦情等を伺っている。また、運営推進会議では毎回家族代表が出席し、いろいろな意見を話し合い、運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを行い、その都度、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に、常に柔軟な対応ができるよう、勤務表を作成し、勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職は最小限に抑える努力をしている。異動の場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。異動により、別の視点から見て質の向上が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を、随時提供している。疑問点があれば、管理者に相談があり、働きながらトレーニングしていくことを勧めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修においては、お互い情報交換を行い、交流の場所となっている。他の施設に友人もおり、相互サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	香川県グループホーム協議会の加入を検討していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦を図っている。職員のストレスが軽減できるよう、常に管理者はアドバイザーとなり、工夫し努力している。午前・午後のティータイムは、職員も一緒に休息を取っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	2か月に1回、ユニットごとのミーティングをし、意見交換をしている。その中で、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、本人の希望・不安等をゆっくり話を聴く機会をつくり、アドバイスをしながら、信頼関係が築けるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期説明を十分に行い、家族との対話を通じて、今後の方向性を明確にし、受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力病院・他のサービス利用を含めた対応に努め、本人と家族が必要としている支援を見極める。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設を何度か見学してもらい、ゆったり、落ち着いた雰囲気にならぬように、その人に合ったケアが提供できるよう、本人・家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的な提供者でなく、入居者のパートナーとして関わりを持ち、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人・家族との連携を図り、連絡は蜜に行うことで、一緒に支えていく関係を築いている。家族あつでの支援であることを、家族会等で周知させていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1回、家族報告書を郵送している。入居者への家族の思いが会話の中で聴けた時は、さりげなく伝え、よりよい関係であるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人、病院のリハビリ通院等で地域の人との関係を維持し、途切れることのないよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し、日中はホールで一緒に過ごして、入居者同士が関わりあい、支え合えるよう努めている。また、ムードメーカーとなる人を中心に、楽しく一日が過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院等で会った時に、ご家族に様子を伺い、お互い気軽に話しかけ、退居後も付き合いを大切に、良い関係の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活状態、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、日々の観察の中から見出し、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活状況、生活環境(職歴・趣味等)、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。何気ない会話の中から新しい情報を聴き、その人らしい生活を送れるよう支援する。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の状態に応じた対応や声かけをし、日々のシグナルを見落とさないよう、総合的に把握するように努めている。その時々々の状況にあった、臨機応変な対応や個人を尊敬した態度で接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすための課題とケアについて、本人、家族等と話し合い、それぞれの意見を反映できるようカンファレンスを行い、具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、入居者に状態に変化が生じた場合は、早めの対応を心がけ、本人・家族等と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果、職員の気づきや工夫を具体的に記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設として、特別養護老人ホーム・ナーシングホーム・ケアハウス・協力医療機関として病院があり、本人の状況にあわせて柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意思や必要性に応じて、近隣の住民・ボランティア・民生委員等と協力しながら、支援をしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用されていたデイサービスに、入居後も利用の意向がある場合、他のサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医(協力病院)との連携を密に、入居後も適切な医療が受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関である病院の医師による指示・助言がある。月に1回、第1木曜日、心療内科医師(認知症専門医)による診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2回、協力病院の看護師の訪問があり、その都度、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、早期退院できるよう普段より病院と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から医師・家族との話し合いのもと、全員で方針を共有している。また、重度化についての同意書にサインをいただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、寝たきりになった方が1名おられるが、協力病院との連携において、指示・アドバイスをもとにチームとして支援に取り組んでいる。また、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の施設に移り住む場合、家族・他の施設のケアマネージャー等で十分話し合い、ダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを配慮した言葉かけや対応、記録等を心がけている。個人情報の扱いについて同意書にサインを頂いている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の入居者の思いや希望が表現できるよう働きかけたり、自己決定を大切に、納得しながら暮らせるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での支援でなく、入居者それぞれのペースを大切に、本人の希望に添った生活ができるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の個性を大切に、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。理容・美容とも、馴染みの店に行かれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、職員も入居者と同じ食事をとり、会話をしながら、味つけ等の好みを伺ったりしている。食べこぼしの多い方には、さりげなくサポートしている。お膳拭き・下膳等の手伝いをしてくれる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午前中のティータイム(紅茶・お茶・コーヒー)は、自分で選んでいただいたり、散歩の時、近くの店で買物をしたり、自動販売機で好きな飲み物を買ったりして、楽しめるよう支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室にトイレがあるため、一人ひとりの排泄パターンがつかみ難いので、早めの声かけや誘導に努め、気持ちよく排泄できるよう自立に向けた支援をしている。	○	おむつを使用しないで済むように、トイレでの排泄に方向づけていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にはバイタルチェックで体調を確認し、個々の希望やタイミングに合わせて、ゆっくりと本人のペースに合わせた無理のない誘導・声かけに努め、入浴を楽しめるように支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中はホールで楽しく過ごしていただき、レクリエーションで体を動かしたり、ゆっくり入浴したりして安眠できるよう支援している。夜中に起きられてる方には、話をしたり温かいお茶を飲んで、気持ちが穏やかになるよう声かけに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中からできることを活かした役割分担(お膳拭き・モップ掃除・献立書き等)、気晴らし(カラオケ・ゲーム・散歩)をすることで、生きがいを持った生活ができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて、家族と相談しながら、お金を所持したり使えるよう支援をしている。病院の売店や買物に出た際、使えるよう支援をしている。ほとんどの方は、自己管理ができないので預っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、リハビリ施設、ケアハウスでの映画鑑賞、散歩、近くの店での買物等の外出支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない空港公園や花見、初詣などに全員で出かける機会をつくり、外出の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話が設置しているので、希望により、本人自ら自由に話しをしたり、年賀状等やりとりができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等がいつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、職員は来やすい雰囲気、挨拶、笑顔の対応を心がけている。ホールで一緒にお茶を飲んだり、歌を歌ったりされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に話し合っている。常に気配りをし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊、帰宅願望、外出傾向の入居者が多く、危険がないように日中鍵かけをしている。(家族の希望で)散歩やリハビリ通院等、外に出る回数を多くしている。	○	昼食・おやつ時は換気を兼ねて鍵をかけないケアに取り組んでいる。今後も開放に向け実践して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に目の届く場所において、入居者一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、所在や様子を把握している。台所は対面式で、入居者の様子を見ながら、食事の支度をしたり、職員室からホール全体が見え、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物などの注意の必要な物品について、管理方法や保管場所を決め、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアルを作成しており、緊急事態の場合は速やかに対処し、協力病院に連絡して、指示を仰いでいる。定期的に講義があり、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成しており、緊急事態の場合に速やかに対応できるよう、定期的に救急救命士による応急手当、初期対応の訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を定期的に行い、避難訓練も行っている。	○	今後、地域の民生委員やボランティアの人々の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	高齢のため、様々なリスクについて、その都度早期発見・対応策を検討、家族に説明し、理解をいただいている。また、転倒予防等については、理学療法士や医師に助言をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異常のサインを見逃さないよう努力している。異常に気付いた際には情報を共有し、適切な対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方箋をファイルしているので、目的・用法・用量は確認できる。医師の指示どおり、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や影響を理解し、排便チェック表をもとに便秘予防に努めている。飲食物の工夫や体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝前に声かけ、誘導を行い、習慣となっている。一人ひとりの口腔状態や能力に応じた支援をしている。義歯の方は洗浄液で消毒し、清潔に管理している。歯科治療については、希望者のみ週1回、訪問歯科を受診できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や一日の水分量をチェックし、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。嚥下困難な方には、きざみ食やお粥等で工夫している。栄養士が献立作成をしているので、栄養のバランス・カロリーは管理できている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、感染対策ミーティングを行い、対応している。(インフルエンザは予防注射し、流行時はうがい、手洗い等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・食器は乾燥機を利用し、まな板・布巾・台拭きはハイター消毒をする等、衛生管理に努めている。また、毎日、業者が新鮮な食材を配達している。冷蔵庫の食材の賞味期限はチェックしている。検食は一週間分保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口の玄関ドアには見ているだけでも楽しくなる、可愛いイラスト入りの表札があり、穏やかな雰囲気をかもし出すよう工夫されている。自動販売機の横に木製のベンチがあり、近隣の方も入居者と一緒に休憩できる空間がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は広く、明るく開放的である。雨の日は室内散歩ができ、入居者の方が過ごしやすい設計となっている。ホールには季節の花を飾り、白い壁には共同制作のちぎり絵が馴染んでいる。台所は対面式で、入居者の様子を配慮しながら、食事の支度ができる。和室には、昔懐かしい玩具が置いてあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間の中にはホールと和室があり、他の入居者と話したり、作業する空間とゆったりと自由に昼寝をする空間があり、それぞれ思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。吹き抜けの中庭には、大きな木があり、花が植えられ、視覚や臭覚の刺激になり、気分転換になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、今までの生活で馴染みのある使い慣れた家具を持ち込める空間があるので、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。部屋には、カレンダーや家族、入居者と一緒の写真を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節を問わず、換気を心がけている。温度調節は外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の身体的変化に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ(身障者用トイレあり)、浴室等に手すりが設置され、流し台は入居者の使いやすい低めの高さ、洗面所は車椅子のまま利用できる。ベッドは転倒を考えて、低めの高さである。また、玄関はスロープになっており、車椅子移動も可能である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が混乱することのないよう、本人の経験や状況に応じて、裁縫、編み物、ボタン付け、洗濯干し、家庭菜園等の個人の力を活かせるよう役割を決め、自立して暮らせるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の桜の木の下では、花見、運動会等を催したり、自由に散歩できる広い空間がある。施設横に家庭菜園があり、野菜や花を季節ごとに植え替え、楽しんでいる。建物の南側には物干し台があり、入居者と共に洗濯物を干したり、取り込む等の活動ができるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣接地に協力病院があり、日々の健康管理、緊急時等が対応できる安心な体制となっている。